

「結婚」に関する学生の意識の変化

— 「ジェンダー論」受講生の意識調査を通して —

黒 木 香

はじめに

現在、私は活水女子大学文学部現代日本文化学科において「ジェンダー論」を担当している。全15回の授業の中で、教育・家庭・結婚・ドメスティックバイオレンス・就業など、現代を生きる女性を取り巻く状況と問題を具体的に考えようとしている。受講生は主に、1年次の学生で、中国や韓国の留学生も複数含まれ、年度によっては数が多い場合もある。

この授業の中では受講生たちに協力してもらい、いくつかの問題についてアンケート調査を実施している。特に、学生にとって関心が高い結婚に関する「あなたは結婚についてどのように考えているか」という調査は5年以上にわたって行ってきた。大学の講義であるため、受講生の数は年度によりかなりのばらつきがあり、留学生の数にも大きな変動があるが、設問はほとんど変えず調査を行っている。調査結果には大きな変化が見えにくいところもあるが、現在の社会現状を多少なりとも反映していると考えられる。

本稿では、この5年間の活水女子大学文学部現代日本文化学科における「ジェンダー論」受講生の結婚意識に関するアンケート調査結果をもとに、現代の社会と結婚との関係について考える。まず、2007年の調査結果を見た上で、2003～2007年の5年間の結果を比較したい。

1、アンケート調査結果の方法

先に述べたように、「あなたは結婚についてどのように考えているか」という結婚についてのアンケート調査を2003年～2007年の5年間行った。アンケート調査は授業時間中に行うため、授業を受講していても、調査に加わっていないものもある。調査は無記名で、日本人学生か留学生かを問わず、全

員に同じ調査をしたが、日本人学生か留学生かの別は記入させている。留学生は、中国・韓国・ベトナム・オーストラリアで、国により意識に大きな差があるが、ここではそれを区別していない。

調査数は以下の通りである。

調査年度	回答数	内 訳
2003年	55名	日本人学生33名・留学生22名
2004年	31名	日本人学生27名・留学生4名
2005年	42名	日本人学生41名・留学生1名
2006年	35名	日本人学生29名・留学生6名
2007年	26名	日本人学生23名・留学生3名

調査項目は10項目で、選択肢から選ばせるようにしてある。項目の中には年度によって、違う問い方をしたものもあるが、注記するにとどめ、結果への影響については触れない。調査項目を以下に示す。

- ① 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対する考えは次のどちらですか。
 いずれ結婚したい・一生結婚するつもりはない
- ② 何歳くらいで結婚したいですか。
 →①で「結婚するつもりはない」と答えた人のみ。
 24歳まで・28歳まで・32歳まで・36歳まで・40歳まで・40歳以上
 (注1)
- ③ 結婚後、仕事を続けたいですか。
 →①で「結婚するつもりはない」と答えた人のみ。
 仕事を辞める・子育て後仕事に復帰する・仕事を続ける
 その他(注2)
- ④ 結婚したら、夫が外で働き、妻が家庭を守るべきだと思いますか。
 まったく賛成・どちらかと言えば賛成・どちらかと言えば反対・
 まったく反対・わからない
- ⑤ 結婚しても、結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきだと思いますか。

「結婚」に関する学生の意識の変化

まったく賛成・どちらかと言えば賛成・どちらかと言えば反対・

まったく反対・わからない

- ⑥ 結婚したら、家庭のために自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だと思いますか。

まったく賛成・どちらかと言えば賛成・どちらかと言えば反対・

まったく反対・わからない

- ⑦ 結婚したら、子どもを持つべきだと思いますか。

まったく賛成・どちらかと言えば賛成・どちらかと言えば反対・

まったく反対・わからない

- ⑧ 将来、子どもを何人持ちたいと思いますか。

1人・2人・3人・4人以上・ほしくない(注3)

- ⑨ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではないと思いますか。

まったく賛成・どちらかと言えば賛成・どちらかと言えば反対・

まったく反対・わからない

- ⑩ 恋愛と結婚は別である、と思いますか。

まったく賛成・どちらかと言えば賛成・どちらかと言えば反対・

まったく反対・わからない

回答は選択肢に○を付けるようにしてあるが、場合によっては、「その他」として記述できるようにした問いもある。この授業を担当することになったときから、類似のアンケート調査を行ってきたが、当初は自由に書かせたところも多かったので、データ整理を行うに際して問題が生じた。そのため、結果を明確にするため選択肢を作った。

調査用紙の最後には自由に記述できる空欄を設け、各設問や自分の考え、感想などを書けるようにしてある。このアンケート調査を行う目的は、授業を通じて学生自身が自分の考えは他の学生と同じなのか、異なるのかを確認し、現代社会の問題として考えてほしいためである。年度ごとの調査結果は、調査の翌週の授業で印刷して配付し、授業の中で細かに触れていく。さらに、

前年度の調査結果と比較したものをもう1枚印刷し、同時に配付している。
2006年度より、円グラフも付属させて、さらに見やすい工夫をした。

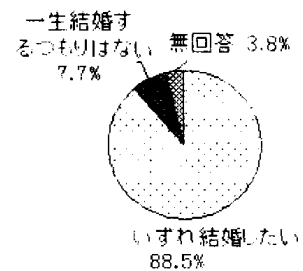
2、2007年のアンケート調査結果

まず、2007年11月15日の授業時に行った調査結果を示す。受講学生数は26名。内訳は日本人学生23名、韓国人留学生2名、オーストラリア人留学生1名である。

以下、各項目に対する回答者数とその割合を示す。問いには回答していない場合もあり、必ずしも26名になっていないこともある。

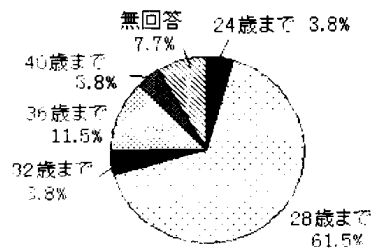
① 結婚に対する考え。

	回答数と割合
いずれ結婚したい	23名 88.5%
一生結婚するつもりはない	2名 7.7%
無回答	1名 3.8%



② 結婚したい年齢。→①で「結婚しない」と答えた人を除く。

	回答数と割合
24歳まで	1名 3.8%
28歳まで	16名 61.5%
32歳まで	1名 3.8%
36歳まで	3名 11.5%
40歳まで	1名 3.8%
40歳以上	0名 0%
無回答	2名 7.7%

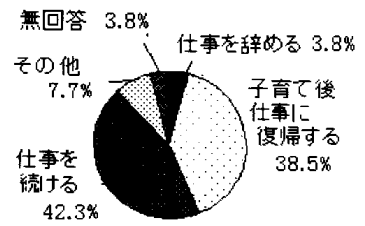


(注4)

「結婚」に関する学生の意識の変化

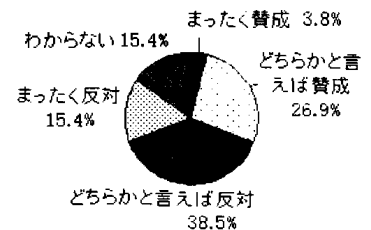
③ 結婚後も仕事を続けたいか。→①で「結婚しない」と答えた人を除く。

		回答数と割合	
仕事を辞める		1名	3.8%
子育て後仕事に復帰する		10名	38.5%
仕事を続ける		11名	42.3%
その他		2名	7.7%
無回答		1名	3.8%



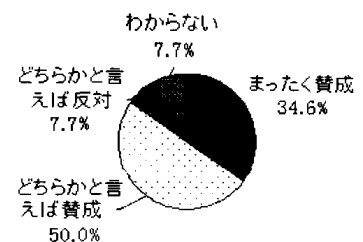
④ 結婚したら、夫が外で働き、妻が家庭を守るべきだと思うか。

			回答数と割合	
まったく賛成	賛成	8名	1名	3.8%
どちらかと言えば賛成		30.8%	7名	26.9%
どちらかと言えば反対	反対	14名	10名	38.5%
まったく反対		53.8%	4名	15.4%
わからない		4名 5.4%	4名	15.4%



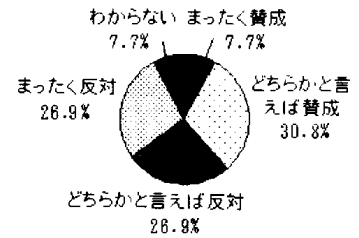
⑤ 結婚しても、結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきだと思うか。

			回答数と割合	
まったく賛成	賛成	2名	9名	34.6%
どちらかと言えば賛成		84.6%	13名	50.0%
どちらかと言えば反対	反対	2名	2名	7.7%
まったく反対		7.7%	0名	0%
わからない		2名 7.7%	2名	7.7%



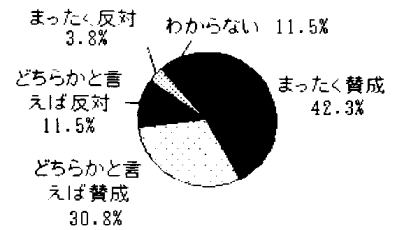
⑥ 結婚したら、家庭のために自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だと思うか。

			回答数と割合	
まったく賛成	賛成	10名	2名	7.7%
どちらかと言えば賛成		38.5%	8名	30.8%
どちらかと言えば反対	反対	14名	7名	26.9%
まったく反対		53.8%	7名	26.9%
わからない	2名 7.7%		2名	7.7%



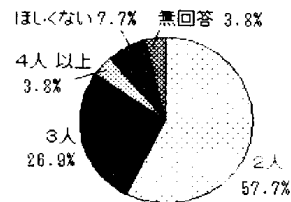
⑦ 結婚したら、子どもは持つべきだと思うか。

			回答数と割合	
まったく賛成	賛成	19名	11名	42.3%
どちらかと言えば賛成		73.0%	8名	30.8%
どちらかと言えば反対	反対	4名	3名	11.5%
まったく反対		15.4%	1名	3.8%
わからない	3名 11.5%		3名	11.5%



⑧ 将来、あなたは子どもを何人持ちたいと思うか。

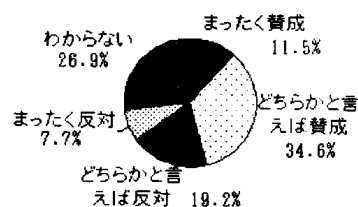
	回答数と割合
1人	0名 0%
2人	15名 57.7%
3人	7名 26.9%
4人以上	1名 3.8%
ほしくない	2名 7.7%
無回答	1名 3.8%



「結婚」に関する学生の意識の変化

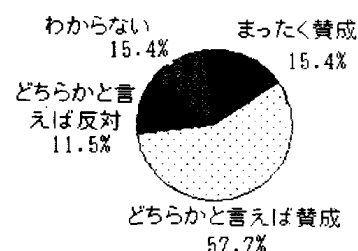
- ⑨ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではないと思うか。

			回答数と割合	
まったく賛成	賛成	12名	3名	11.5%
どちらかと言えば賛成		46.1%	9名	34.6%
どちらかと言えば反対	反対	7名	5名	19.2%
まったく反対		26.9%	2名	7.7%
わからない	7名 26.9%		7名	26.9%



- ⑩ 恋愛と結婚は別である、と思うか。

			回答数と割合	
まったく賛成	賛成	19名	4名	15.4%
どちらかと言えば賛成		73.0%	15名	57.7%
どちらかと言えば反対	反対	3名	3名	11.5%
まったく反対		11.5%	0名	0%
わからない	4名 15.4%		4名	15.4%



受講生たちのほぼ全員が、大学卒業後には就職することを希望している、あるいは就職しなければならないと考えている。内心では就職を希望しない場合もあるだろうが、家族（親、特に母親）は就職してほしいと考えている。ずっと働きたいという学生も増えている。「ずっと家にいるとノイローゼになりそうだ」「専業主婦になると自分の世界がなくなる気がする」との声も出ている。

受講生の88%は将来結婚したいと考えており、その希望年齢は28歳代後半。結婚後に子どもを持ちたいと思う者も88%である。離婚に関しても、軽い気持ちで離婚すべきではないと考えている。こうした調査結果は、公的機関などで行われた調査結果と大差はない。

「男性は外で働き、女性は家庭を守る」（項目④）という考え方に反対する（消極的反対含む）者は多いが、まだこの考え方はなくなってしまったわけで

はない。その通りだと首肯する者が今年も1名いる。受講生たちの家庭では、家事を母親だけが負担するのではなく、父親も分担しているというところが、全体の三分の二を越えていた。夫婦共働きが増加する中で、各家庭での家事分担も少しずつ進み始めている。共働き家庭の女性の家事負担が過重な日本社会全体から見れば、この割合は少し大きいようだ。学生たちは各自の育った家庭の価値観に囚われてはいるが、その考え方は多様化している。

一方で変わっていないものもある。授業時に、結婚するに相手相手の男性にどのような条件を求めるか、と尋ね、希望する条件を書いてもらったところ、圧倒的多数が「経済力」をあげた。現在の男女間における賃金格差は少しずつ縮まってきているとはいえ、男性の一般労働者の給与水準を100とすると、女性の一般労働者は67.1にとどまっている（注5）。こうした状況下では男性の給与に家計が依存することは否めないが、「男は外、女は内」という価値観を受け入れにくくなり、家事の分担を求める声は強い。しかし、家計収入を男女平等に負担する考えはあまりない。

「平成17年度版 国民生活白書」には、「結婚相手を決めるときに重視すること」（2002年の「出生動向基本調査」結果に基づく）についての結果が示されている。それによると、女性の場合には、相手の人柄、家事や育児の能力や姿勢、自分の仕事に対する理解と協力をあげた者が多かった。相手の収入をあげた割合は34.3%であった。具体的数値として比較することはできないが、現在の社会情勢を反映したものか、今年を受講生では人柄などをあげた者は少数だった。結婚相手が「専業主夫」でもかまわないという者が1名いたが、男性を扶養してもよいとは考えていないようだ。

3、5年間のアンケート調査結果

前項では2007年の調査結果を見た。本項では、各設問についての2003～2007年の5年間の調査結果の数値を示しながら、学生たちの結婚意識の変化についてみていきたい。各回答の数値は、小数点1位を四捨五入した整数で示してある。

「結婚」に関する学生の意識の変化

① 結婚についての考え

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
いずれ結婚したい	89%	86%	86%	90%	96%
一生結婚するつもりはない	8%	14%	12%	10%	4%

(注6)

国が行っている調査でも、結婚を希望する若者が多いのと同様、結婚したいと考える割合は5年を通じて高い。%で示せば、「結婚するつもりはない」という回答者が多いようだが、大体2名くらいの回答者数である。以前は、日本人学生には「結婚するつもりはない」と回答する者はほとんどいなかった。しかし、現在は2名くらいはいる。結婚したくない、と考える者は少しずつ増える傾向にあると言ってよい。

② 結婚したい年齢。

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
24歳まで	4%	13%	19%	32%	38%
28歳まで	62%	50%	58%	35%	33%
32歳まで	4%	30%	17%	28%	15%
36歳まで	12%	7%	0%	4%	0%
40歳まで	4%	0%	0%		
40歳以上	0%	0%	0%		

(注7)

2003・2004年度には20歳半ばまでの結婚を希望する者が多かった。受講生は4年制大学生であり、卒業するときには22、3歳になっている。ほとんどの受講生が卒業後は就職することを希望しており、24歳くらいで結婚することは少ないのが現状だろう。翌週の授業でそのことを話すと驚く者が多かった。それは漠然と結婚したいと思っている年齢が、実際にこれから歩む可能性が高い人生と一致しにくくなっているためではないか。

5年間の調査では、ここ2年は結婚希望年齢が上昇している。2006年から、以前は全く見られなかった30歳代後半を記すものが出てきた。特に2007年に

は、以前には見られなかった40歳までを選んだ者が1名いた。希望するというよりも、現実の人生を考えると20歳代後半での結婚はむずかしいということに気付いたのだろう。

現在の少子化問題の原因は「晩婚化」にあると言われているが、それは活水の学生（受講生）にも顕著に見られるようになってきたようだ。そして、頭の中で考えていた人生設計をより現実的なものに修正をし始めているように見える。この項目は年度によって、年齢の問い方が異なっているところもあり、正確な比較はしにくいだが、このままこの調査を行っていけば、結婚希望年齢は今後も上昇することが予想される。

③ 結婚後の就業状況

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
仕事を辞める	4%	17%	22%	8%	17%
子育て後仕事に復帰する	39%	37%	32%	29%	26%
仕事を続ける	42%	40%	41%	54%	49%
その他	8%	7%	5%	8%	6%

その他には、最初から就職を希望せず、専業主婦になりたい場合などがある。内心では最初から就職を希望せず、専業主婦になりたいと考えている受講生もいるが、卒業と同時に現実に結婚する者は非常に少数である。

受講生に限らず、現代日本文化科学学生の卒業後を、知る範囲で見ると、働き方にはいろいろあるが、その多くは就職をし、出産後も仕事を続けている者も多い。特に、教員や公務員では、出産休暇が比較的取りやすいためか、仕事を継続するケースが多いのではないかと思う。

④ 夫が外で働き、妻が家庭を守るべきという価値観についての考え。

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
まったく賛成	4%	0%	2%	3%	9%
どちらかと言えば賛成	27%	34%	31%	19%	25%
どちらかと言えば反対	39%	29%	21%	35%	33%
まったく反対	15%	26%	31%	6%	22%
わからない	15%	11%	14%	32%	11%

「まったく賛成」「どちらかと言えば賛成」を賛成、「まったく反対」「どちらかと言えば反対」を反対、と大きく分ければ変化はあまり見られず、年による差が大きい。この考えに賛成する者は約30%くらいの割合で推移し、それは経済的な面での男性への異存が継続することとも繋がっているだろう。

⑤ 結婚後も自分独自の目標を持つべきだと思うか。

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
まったく賛成	35%	31%	24%	29%	31%
どちらかと言えば賛成	50%	51%	62%	52%	53%
どちらかと言えば反対	8%	6%	0%	3%	5%
まったく反対	0%	0%	0%	3%	4%
わからない	8%	11%	14%	10%	7%

この質問に関しても、大きな変化は見えないが、最近では自分だけの目標を持つ必要はないと明確に反対する者は全くいなくなっている。意識の上では、個としての独立を保ちたいという考えが定着してきているのだろう。

⑥ 家庭のために自分の個性や生き方を半分犠牲するのは当然という考え方。

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
まったく賛成	8%	3%	0%	0%	7%
どちらかと言えば賛成	31%	31%	26%	32%	31%
どちらかと言えば反対	27%	40%	45%	39%	35%
まったく反対	27%	14%	12%	19%	22%
わからない	8%	11%	17%	10%	5%

この5年間ほぼ40%近い者が賛成している。家庭に合わせて、自分の気持ちを抑制する必要はないとする者もいれば、家族のために自分を犠牲にすることが自分の個性や生き方になるという感想を記している者もいる。

⑦ 結婚に伴い子どもは持つべきだと考えているか。

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
まったく賛成	42%	37%	38%	23%	53%
どちらかと言えば賛成	31%	46%	43%	45%	36%
どちらかと言えば反対	12%	6%	5%	6%	0%
まったく反対	4%	3%	2%	13%	2%
わからない	12%	9%	12%	13%	9%

日本では子どもの多くが結婚した夫婦の間に生まれているので、子どもを持つことと結婚は結びつけて考えられているだろう。ここでかなり多くの者が、結婚すれば子どもを持つべきだと考えているのはそのことと関係があるだろう。年度による差があるが、子どもを持たなくてもよいと考える割合は上昇しているように見える。

⑧ 子どもを何人持ちたいか。

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
1人	0%	3%	14%	13%	15%
2人	58%	60%	67%	48%	42%
3人	27%	23%	10%	16%	20%
4人以上	4%	9%	0%	3%	2%
ほしくない	8%	6%	7%	16%	0%

(注8)

* 無回答4%

* 無回答2%

第13回出生動向基本調査「結婚と出産に関する全国調査 独身者調査」(2005年調査、国立社会保障・人口問題研究所)によれば、女性の希望は2.10人で「下げ止まり傾向」にあるという。年度によっては、「1人」を希望する場合10%を越えていたが、2006年には3%、2007年には0%だった。「1人ではかわいそう」という考えによるようだが、出生動向基本調査では、7.3%である。一方で、「3人」は20%を越え、「4人以上」の回答もある。

⑨ 「性格の不一致」という理由で離婚すべきではないと考えるか。

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
まったく賛成	12%	14%	19%	10%	13%
どちらかと言えば賛成	35%	29%	29%	39%	31%
どちらかと言えば反対	19%	20%	26%	13%	27%
まったく反対	8%	9%	10%	19%	11%
わからない	27%	29%	17%	19%	18%

「賛成」か「反対」かで分けて見ると、「賛成」の立場の者が少しずつ減少し、それも仕方がないと考える「反対」の立場の者が少し増えてきている。実際の離婚において「性格の不一致」は他に言い方がない場合にも使われる理由だが、簡単に離婚してもよいと考えているのではないものの、離婚そのものはゆるやかに許容するようになってきているようだ。

⑩ 恋愛と結婚とを分けて考えるかどうか。

	'07年	'06年	'05年	'04年	'03年
まったく賛成	15%	34%	33%	26%	36%
どちらかと言えば賛成	58%	40%	29%	23%	33%
どちらかと言えば反対	12%	11%	14%	26%	7%
まったく反対	0%	6%	14%	6%	5%
わからない	15%	9%	10%	19%	16%

年度ごとのばらつきはあるが、変化はあまり見られない。2007年では「まったく反対」がないことに驚いた受講生もいた。現代では、結婚を前提として付き合うのではなく、付き合っている相手と結果的に結婚することが多い。「恋愛」以外の結婚の方法が少なくなっている現状では、恋愛の段階では結婚はほとんど意識されていない。

おわりに

現代において、結婚をめぐる大きな変化は結婚に対する意識の変化によるのではなく、社会そのものの変化によってもたらされている。一時期、「パラサイトシングル」という言葉が流行り、独身の若者は自由気ままに生活しているように非難された。その後、「ワーキングプア」など若者には限定されないうが、若者たちが置かれている雇用環境の悪化が深刻な問題となっている。

それは就業上の問題に止まらず、若者たちの結婚に影響を与えている。特に、経済的な「格差」は結婚と強く関わり、年収200万円を下回るワーキング・プアでは結婚は難しい。前述したが、男性への経済的依存から抜け出していない状態では、収入が低い男性の結婚は困難である。結婚対象とならない男性が増えれば、今後結婚しない・できない人の数が増加し、「少子化」はより重要な問題となっていくだろう。

文学を専門分野とする私は、6年にわたり、「ジェンダー論」を担当するなかで、これまでほとんど意識することがなかった問題に気づかされることも多かった。本学は女子大学であり、同じ質問を男子学生にして比較すること

「結婚」に関する学生の意識の変化

ができないのは残念だが、複数年にわたり調査を重ねたものを示し、現在の若者の現状を分析する一つのデータとした。

調査に協力してくれた受講生たち（既に卒業している学年もある）は、今後自分の回答した予想とどのように異なる人生を送るのだろうか、知りたいところである。

（注1）2003・2004年度は、希望年齢を自由に書かせた。2005年は、22～24・25～28・29～30・31～の項目で調査した。

（注2）2003・2004年度は、「その他」として自分の考えを自由に書かせた。

（注3）2003年度は「ほしくない」の項目はなし。

（注4）項目にはないが、「その他」を書き加えた2名がいた。そのうち1名は「20代のうちに（20～29）」、もう1名は「年齢は関係ない」と回答した。

（注5）「平成19年度版 男女共同参画社会白書」第二章 第1－2－14図による。

（注6）無回答は4％。

（注7）2007年には、無回答4％がある。2004年度以前は、「その他」として自由筆記。2004年は「その他 8％」、2003年は「その他 9％」。

（注8）2003年度は「ほしくない」の項目はなし。